

東近江市総合計画審議会 会議録

第4回 東近江市総合計画審議会		
日 時	平成23年8月11日（水） 13:00～15:00	
場 所	東近江市役所 3階 3A会議室	
出席者	審議会	稲川会長 今堀副会長 小倉委員 武藤委員 大林委員 太田委員 野々村委員 川村委員 山村委員 森田委員 北川（憲）委員
	市職員	籾野企画部長 村井企画部次長 南川企画部次長 企画課 吉澤 本持 古川
欠 席 委 員	堤委員 井上委員 小椋委員 北川（陽）委員	

開催

1. 会長あいさつ

【会長】

今日は、序論・基本構想の議論を進めたいと思います。少し長くなりますが、事務局より資料の説明をお願いいたします。

2. 総合計画 序論・基本構想（案）について

【事務局】

資料説明の前に、6月25日のシンポジウムが成功裏に終わったことに対しお礼申し上げます。参加者の方からは市民の方々の多彩な活動の報告が聞けて良かったという声を頂きました。ありがとうございました。

【会長】

私からも、ありがとうございました。

【事務局】

- ①資料2により、総合計画の概要を説明する。
- ②資料1・3により、序論・基本構想（案）を説明する。
引き続き、シンボリックな施策の削除について説明する。

【削除理由】

- ・「ひだまり」「こだま」に示されている施策は、6本の基本構想にすべて記載され重複している。後期計画では施策の重複をさげ、シンプルで分かりやすい計画としたい。
- ・後期基本計画では、各施策に優先度を記載する予定であり、シンボリックな施策を標記すると指標が二つとなる。

【会長】

説明をありがとうございました。
説明が大変長時間でしたので、ここで10分間休憩します。

(休 憩)

【会長】

只今の説明のとおり、基本構想はもっとも大きな視点（まちづくり）からの方向です。序論と基本構想に示されている方向性について共通認識を持つということと、基本構想は後期計画に照らして見直すということになります。このメンバー（審議会）ならではの意見を期待しますが、わからない点については次回でも結構です。意見がございましたら、お願いします。

【委員】

一般論で言うと、後期計画なので現計画を大きく変える訳にはいかないでしょうが、市長が変わったということを事務局はどう受け止めていますか。

【事務局】

基本構想は、10年間の計画として、5年前に議決を頂いています。また、首長が変わるごとに、大きく変わるものではないと考えています。

原則は、基本構想を引継ぎながらも、今回の見直しにあたっては、市長の「希望都市づくり行動計画」をもとに市長の意向をお聞きしました。それを踏まえて、後期計画の中で、「希望都市づくり行動計画」の示す課題、施策を盛り込むことといたしました。

【委員】

今、説明があった部分について計画は変えるということですか。

【事務局】

変えるのではなく、只今申し上げたことを盛り込むということです。

【会長】

そこは、重要なところですが、市長はそれでよいということなのですね。

【事務局】

はい。

【会長】

大きなところでは、市長もよいということですので、皆さんもよろしいでしょうか。

【委員】

資料1 11 ページの市民アンケートですが、回収率の 39.2%について、高齢者が多いことのコメントが必要ではないでしょうか。

専門部会をいくつか見た中で、共通課題があると思います。専門部会に参加して感じたのは、「人材」のことで、文言はあるが、「担い手の育成」についての戦略がなく、そこが抜けているのではないかと思います。（P15 などに）

つぎに「相談支援」についてですが、知的、精神、自殺、母子などで努力はされていますが基本的に縦割りです。隙間に落ちる方がいる場合があり「包括的な相談体制」を盛り込むべきだと思います。（P16（3）などに）

同時に、子どもの就学後 30 歳ぐらいまでの施策が抜けていることがわかりました。少子高齢化の関係で、安心できる地域社会はイメージとしては障害者も入りますが、やっぱり高齢者が主です。そういうことを考えると就学後の 30 歳ぐらいまでの人の、例えば「自殺の問題」「とじこもりの問題」「就労の問題」などに対応した支援、特にその部分は発達障害が大きく

関係していると思いますが、ここの部分がどうも施策の間に抜け落ちているという感じがあります。この部分の拾い出しをしておかないとその人達が働けない状態で、それが自殺や色々なところにつながってしまう「とじこもり」「暴力」「就労につながらないから生活保護」・・・ここの部分の施策が弱いと感じました。(P29 第3節 第4節などに)

【会長】

専門部会に出ても、人材の話では、やはり壁にぶつかる。ここ(審議会)には人材が集まっていますので、ご意見を伺いたい。この問題について、どうですか。

【委員】

東近江市に限らず発達障害の問題が3年ぐらい前から、総合計画に載っているようになっています。

発達障害(施策)を載せるのであれば、東近江市発達支援センターで支援のしくみづくりをしているのでそれを盛り込んでいただくと、意識しやすいのではと思います。ひきこもりの8割の方は発達障害の方なので、ベースのところでは発達障害の問題とひきこもり、また自殺も発達障害の方のほうが多いので、すべてにつながると思っています。

計画に成人されてからのことが載るということは大きな前進だと思います。子育て支援や学校教育は明確に対象をしばりやすいですが、発達障害とかひきこもりは対象がかなり広いので、その部分を計画に載るのはかなりすごいことです。学校教育においてもかなり反響があると思います。

東近江市の中でも就労については中学1年生の担任の先生達からの相談が一気に増えている状態です。教育と就労をつなぐ大きな架け橋の学校(教育)には、この計画で就学後のことが載るといのは大きな影響があると思います。

【会長】

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

【委員】

(先ほど言われた)相談窓口がばらばらということで少し違うかもしれませんが、東近江市が、相談と施策の窓口を分け仕組みを変えられたことについて住民からの声がとても大きくて、仕組みを変えられたことでとても使いやすいとの評価があるので、先ほどの課題と何か結びつけられたらと思います。

【会長】

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

【委員】

9ページの私たちを取り巻く社会潮流の少子高齢社会での安全・安心な暮らしのところで、地震、津波・・・云々がありますが、今回の震災(東日本大震災)を契機として思いやりとか助け合いとかの大切さを改めて認識をされ、かなり大きな潮流になっており、絆という言葉で価値感が高まっていることが社会的にも認められています。だから、かくあるべしというところまでの考えはないのですが、一度皆さんで社会潮流の中で受けとめるかどうか、議論していただけないでしょうか。

【会長】

確かに、せまいところ（分野）では災害対策の必要性というところでは影響があるのかと思います。震災の話は、社会システムにも変更を迫る大きな話のように思います。いまの今堀委員の意見について市の中で議論があったのか紹介をお願いします。

【事務局】

市域が大きくなるにつれ、行政と自治会との関係、顔が見えない、市民との距離を感じています。

震災（復興）を見ているといろんな枠を超えて支援や助け合いが、オールジャパンでされている中で必要（思いやりとか助け合いとかの大切さ）と思いますが、この中（序論・基本構想）ではそういう議論はされてなかったと思います。

【委員】

総合計画の中で、どう受け止めていくのかは難しい面もあることは私もよくわかるのですが、全国的にそういう風潮があるようなことがマスコミ等でもされていますので、少しどこかで意識してもよいのと思いました。

【会長】

他にご意見があれば、お願いします。

【委員】

（絆ということに関して）31ページの「市民とともに進めるまちづくり」の「地域資源を活用し、地域の絆の再生を図る・・・」に触れていると理解しています。

【委員】

（絆ということに関して）震災（防災）のところにいれるのか、それとも地域の再生で入れるのか、また具体的に地域の中でどうするのかという盛り込み方もあるのではと思います。

【会長】

震災対策という点で、いくつか考え方もあるでしょうし、他にも、入れていくという考え方もあると思います。他に、どの点ということはありませんが、（ご意見は）どうでしょうか。

【事務局】

本日は、東日本大震災から5ヶ月になります。これから、全庁で黙祷をおこないます。ご協力をお願いします。（全員黙祷・午後3時）

（黙祷後）

【委員】

県の防災担当者と昨日、話をしましたが、（県の）防災計画で原発の問題をどのように扱うのか悩んでいるとのことでしたが、この中（本計画）ではどのように考えればよいのでしょうか。長浜や彦根市は深刻さがあるみたいですが、東近江市ではどうでしょうか。琵琶湖が汚染されれば、京阪神はバンザイ（全滅）です。放射能汚染で自治体がなくなるということは総務省も想定していないと聞いていますが、どの様に表現できるのか、事務局は、どう考えていますか。

[企画部長]

防災計画を作るわけでもないし、環境計画を作るわけでもありません。ここでは5年後の東近江市のあるべき姿を考えるもので、今の話をさらに深めてということだが、原発についてコンセンサスをとるのは（ここでは）不要だと思います。個人的には震災に触れるのはよいが、その先がむずかしいのではないか、防災計画の見直し、エネルギー（問題）も計画に謳うことはできるが、それらを計画に触れるのは難しいと思います。

[委員]

介護分野から人材育成についてですが、現状では人材が集まりません。希望者がなく、同じ人がぐるぐる回っています。人材をどうするかが問題です。

また、6ページのグラフの各年度を統一できないでしょうか。

[事務局]

データによっては年度ごとにないものもあります。最終的に確認します。

[委員]

人口についてですが、年齢（階級別）ごとのグラフであれば先の人口構成がわかりやすいのではないのでしょうか。また、5、10年後ではなく、もっと長いスパンで見えていくとよくわかると思います。

[会長]

ピラミッドグラフのような見せ方をすればよいかもしれません。将来人口については、どのような視点で議論すればよいか説明してください。

[事務局]

これまで（合併後）は12万人を人口規模として考えてきました。案では、フレームという言葉で、12万人を謳いました。今後は、高齢者が増え子どもが少ない中で、今までの総計の作り方を変えてもよいのではないかと考えています。

[委員]

アンケート調査の際、人口が減少していることと財政負担の現状についての資料を同封いたしました。現状をきっちり見ていただいた上で（市民に考えていただいて）実施したということで、これについて、これまでの右肩あがり行政（サービス）も拡大していくという志向がある方々からは逆にお叱りを受けたと聞いています。総合計画は総花的でいろんなものが入っているこれまでとちがって人口減少の中での今回の後期計画の見直しについては、ご指摘のように5年ではなく、もっと長期的な視点で見るとよいのではと思います。

[委員]

江戸時代の（わが国の）人口は2千万人で、輸入もせずにやってきました。その後、産業革命があつて石油とか産業（構造）が変わりましたが4千万人、5千万人の食料は作れていたわけです。そこへ戻る可能性もあります。また、伸びているところの人口は増えます。その辺を良く考えてやらないといけません。先を見据えてやるのが大事だと思います。

[会長]

このあたり（年齢構成等）を含めて、次回に改めて皆さんの意見をお聞きしたいと思います。

[事務局]

- 次回委員会は9月22日（木）14時～ 東近江市役所 3A会議室
- 資料-4を利用して、意見を事務局に提出してください

[事務局]

- 基本計画（案）の策定進捗について説明
 - ・延べ17回、専門部会を開催
 - ・実際の計画案の立案
 - ・指標の設定
 - ・5年間の事業量調査（優先度の設定）

3. 閉会